

# 水稲育苗用被覆資材の効果確認試験

JAきょうわ

高橋 直己



4月22日撮影



全体図



内側にポリ



土温度



ハウス内温度



ハウス外温度

## 試験目的

水稲育苗用被覆資材の効果確認試験

## 試験作物 及び品種

水稲

## 試験資材 及び数量(規格)

本州太陽シート(2.7m×50m) 2枚

## 慣行資材

シルバーポリトウ#90

## 資材使用期間

4月22日～5月15日頃

## 試験区面積

270㎡

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品と比べて使いづらかった印象。端の部分が内側に巻き込んでしまい、展張時にシワが寄りやすい傾向があった。また、たたんで収納する時も巻き込むので、しまいづらかった。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

思ったよりも温度が下がるため、水稲の育苗が止まってしまうことがある。そのため、外気温が低い日には午前中に太陽シートを開けて地温を上げてから午後にかけることを試みた。よって、9日～10日間で発芽。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：温度が上がりにすぎないため、異常高温時には良い。

【問題点】：しまう時の作業性の悪さ。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

強度についてはシルバーポリトウよりも破れやすいと感じた。耐久性についてはこれから数年使用し判断するが、しまう時に傷つけてしまうと耐久性が落ちるので気をつける必要がある。

### (5)保温効果について

夜間の保温効果は少しあった(温度取り結果)

## モニター感想

かなりハウス内の温度が上がっても、シート内側は温度が上がっていないので驚いた。今年の気候は暑い日が限られており、生育が途中から遅れ気味になったため、一度シートを剥がした。温度管理を全くしないで育苗管理ができるわけではないので、引き続き気をつける必要はある。片づけ時にコツがいるため、慣行品よりも面倒に感じた。

## JA担当者の感想(生産資材課 吉田課長)

育苗箱内の急激な温度上昇を避ける資材としてはかなり高性能であると思った。逆に一定の温度まで上げるのに苦労されていたため、発芽するまでの時間がかかり灌水などの育苗管理に戸惑う場面が多かったように感じられた。当地区については水稲育苗ハウスと一般圃場が比較的離れている所が多いため、ハウス内温度管理を細目に行う事を煩わしく感じている組合員が多い。従って、「育苗ハウスを閉めっぱなしで良い」となれば結構普及する可能性は高いと感じるが、何年使用出来るかという耐久性(3～5年)に問題が無い事と、価格的にあと30%程度安くなれば普及率は格段に伸びると推察する。

## 今後の使用について

改良して欲しい。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 クリーンシート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他